



## 6月の園だより

太陽の子保育園  
2024年6月号

いよいよ梅雨の季節を迎えました。湿度が高く、蒸し暑い日があると思えば、急に肌寒く感じられるような梅雨寒の日もあります。保育園でも、気温にあわせて衣服をじょうずに調節し、体調をくずさないように気を配っていきます。また、戸外に出る機会は少なくなるかもしれませんが、雨の季節を楽しく過ごせるよう、雨音を聞いたり雨粒に触れたり、梅雨ならではの自然を感じる機会を大切にしていきたいと思えます。

季節の変わり目は、身体にも影響がでたり、不快指数も、うなぎのぼりになってしまいます。そんな季節を健康に過ごしていける様にご家庭でも、バランスの良い食事・十分な睡眠・入浴やシャワーで上手に気分転換（身体の清潔）を心がけて、リズムある生活をしていただければと思います。

## 7月3日はプール開き(予定)です



### プールでのお願い

子どもたちの心待ちにしていたプール開きの時期がやってきました。安全に気をつけながら、水に親しむことの楽しさを子どもたちに学んでもらいたいと考えています。

- 朝食は必ずとりましょう
- 朝、必ず体温をはかり、健康状態をよく見てください。熱のあるときや体調の悪いときは入水できません。
- 雨天、気温の低い日、強風、行事のある日等はプールに入りません。
- 耳あかをとり、手足のつめを短く切っておきましょう。
- 病気がかかっている人は、早く治療をしておきましょう。特に健康面で心配なことがありましたら、事前にご相談下さい。
- 入水後は非常に疲れますので、休養をしっかり取るなどして、体調管理に気をつけましょう。

## あじさいの色

梅雨といえばアジサイの季節。保育園の玄関にもきれいなあじさいが生かれています。雨の日を美しく彩るアジサイには、青系と赤系の花がありますが、どうしてでしょうか？それは、土壌に含まれる成分によって色が変わるからです。酸性の土壌では青系、アルカリ性の土壌では赤系になります。日本は火山地帯で雨も多く弱酸性の土壌なので青系が主流ですが、ヨーロッパではアルカリ性の土壌のため大半が赤系です。色鮮やかな青系のアジサイや、色の変化するアジサイは日本独特のものなのです。



## 6月の予定

- 4(火) 懇談会(うさぎ)
- 5(水) 保育参加・懇談会(ぱんだ)
- 7(金) 避難訓練
- 12(水) 音楽指導(幼児)
- 13(木) 歯科検診(全園児)
- 14(金) 調理保育(ぱんだ)
- 17~21 身体測定
- 18(火) 職員園内研修
- 19(水) 太鼓指導(らいおん)
- 21(金) 調理保育(らいおん)
- 25(火) 体育指導(幼児)
- 26(水) 虫歯予防集会(幼児)
- 28(金) 職員会議
- 28(金) お誕生日会

## 7月の予定

- 3(水) プール開き
- 5(金) 七夕会(誕生)  
※年間予定表から変更あり
- 8~12 身体測定
- 20(土) SUNSUNまつり
- 22(月) 体育指導(幼児)
- 24(水) 避難訓練
- 26(金) 流しそうめん(幼児)

## 衣替えについて

日に日に暑くなり、子どもたちも水を触ったり汗をかいたりして、着替えをする回数が増えています。園にある服を夏服にして、十分な着替えの用意をお願いします。またこの機会に、名前が消えていないか確認しておいてください。



## 困ったときの子育て相談室

河合隼雄・古平金次郎・滝口俊子 著 創元社

## 依存は自立の反対ではない



子どもを育ててゆく上で、「自立」ということは大切なことです。子どもは親から自立して、自主的、主体的に生きる大人へと成長してゆかねばなりません。そこで、どの親も子どもを自立的な子どもに育てようと努力することになります。

小学校に入学する少し前の子どもで、言葉が十分にうまく話せなかったりとか、落ち着きがなくて困るとか、ということで相談に来られる親があります。お話をよく聴いてみると、子どもを「自立」させることに熱心になりすぎて、子どもの成長に必要な親への依存-甘え-を断ち切りすぎている、ということがあります。

心理学者も、かつては、自立-依存というのを反対のものと受けとめて、自立するためには依存をできるだけ少なくすること、と誤って考えていたことがありました。しかし、最近の研究では、自立のためには適度な依存が必要だと考えるようになりました。甘えが不足しすぎると、不安が強くなってかえって自立するのがむずかしくなります。

大人について考えても同様です。自分は自立しているのだからだれの世話にもならない、などと考えるより、いろいろな人に頼り、多くの人のおかげで生きていることをしっかりと自覚し、それに感謝して生きている人こそ、自立していると言うのではないのでしょうか。

依存をできるだけ少なくして自立しようと焦る人は、自立ではなくて「孤立」になってしまうように思われます。

そんなこと言っても、「適切な甘え」というのはいったいどういうことなのか、どの程度が「適切」

なのかわからないではないか、と言われるかもしれません。これは、子どもにどの程度の服を着せるか、というのと似たようなことです。厚着をしていると、子どもはすぐ汗をかくし、何だか動きにくそうにしているでしょう。薄着にしすぎると、くしゃみをしたり、顔が青くなったりするでしょう。つまり、子どもを見ていると「適切な」服の程度がわかります。

これと同じように、子どもがかわいいと思えば抱きしめてやればよいし、夜寝るときも親といっしょのほうで安心と思えば、そうするといいでしょう。しかし、そうしているうちに、子どもが何でもかんでも親に頼って、自分一人で行動しないようであれば、どこかで自立的な方向にすすむ「しつけ」が必要ということになるでしょう。これと逆に、子どもを自立的にしつけてきたとか、しつけようと思っていても、子どもが急におねしょをしはじめたり、不安な様子を見せたりしはじめると、これは少し甘えが足りないのかな、と考えるといいでしょう。子どもの様子を見ていると、どのあたりが「適切」かはよくわかります。

「しつけ」は小さいときから少しずつしてゆくことが大切ですが、それは甘える関係を土台として行なわれることを忘れてはいけません。甘えているなかで、どこかにピシッとしつけの筋がとおっているのがいいのです。このように、依存と自立を反対として割り切るのではなく、その両方をうまく両立させるように工夫することこそ、ほんとうの親の愛情だと言うことができると思います。

## 子どもを自転車に乗せるときは、必ずヘルメットをかぶらせましょう！

東京都生活文化スポーツ局より

- ①停車している自転車が転倒して、前部の幼児座席に乗っている子供が頭部を負傷する事故が多く発生しています。
- ②自転車乗車時はヘルメットを着用させましょう。帽子は代わりをつとめることができません。
- ③ヘルメットは、SG マーク等安全規格が付いたものを着用させましょう。
- ④着用する場合は、あごひもは正しく締めるなど使用上の注意事項を守りましょう。誤ったかぶり方では事故時に役に立たないこともあります。

